障害者が災害時に困ること＝みんなが災害時に困ること

2025.7.27　草津市立市民交流センターキラリエ草津
2025.8.1　滋賀県立米原文化産業会館

滋賀肢体障害者の会「みずのわ」　片山雅崇

０．自己紹介

片山雅崇（かたやままさたか）と申します。
1 種 1 級の　脳性まひ　電動車いす使用
現在、滋賀肢体障害者の会「みずのわ」の会長。滋賀肢体障害者の会「みずのわ」は、肢体障害者やその家族が、ともに楽しみ、ともに語り合う中で、それぞれの願いや悩みを出し合い、ひとりひとりの願いや悩みをみんなの問題として考え、みんなの力で実現・解決していこうという団体です。「みずのわ会」は、ひとりひとりが、会をつくっていく主人公となれる民主的な会です。
仕事は、アイ・コラボレーションという就労支援事業所で、「ユニバーサルツーリズム事業」を担当しています。ユニバーサルツーリズム事業については、また、機会があれば、お話ししたいと思います。

１．はじめに・・・

みなさん自身が災害時に、困ると思われるものは、何ですか？

2. 障害者とその家族における防災意識についての実態調査から

（調査期間：2018 年 10 月～12 月　集計・分析期間：2019 年 1 月～11 月）

みずのわでは、上記の期間に障害者とその家族における防災意識についての実態調査を実施しました。

調査したきっかけは、「滋賀県要配慮者支援ネットワーク会議」に当事者団体として加盟するなかで、当事者団体として何ができるのかという論議になり、そもそも障害者・家族が災害時に何に不安を感じ、何に困ると思っているのか把握できていないということです。

この調査は、大地震などの災害発生時に＜避難時＞＜避難所での生活＞＜その後の生活＞といった場面で、障害者とその家族がどのような不安を持ち、どのような課題があるのかを明らかにすることで、行政などに障害者とその家族における防災施策のあり方を提言し、東北大地震の悲劇を繰り返さないことを目的に実施しました。

◎アンケートの結果と分析について

アンケートの結果を、滋賀医科大学・社会医学講座・衛生学部門の辻村裕次先生のご協力のもと、分析しました。

１．アンケート回答者と有効回答数

アンケートの回答数は、335 ありました。その中で、回答記入者が未記入であった方が 6 名ありましたので、それらを除き、有効回答数を 329 としました。

表 1. 回答記入者内訳（合計 329 名）

本人	父	母	祖父母	兄弟姉妹	配偶者	子供	その他
104	25	176	4	9	4	2	5

２．当事者の基本属性

【性別，年代，障害区分】

当事者の年代は 20 代が最も多く、次いで 30 代、40 代でした（図 1 参照）。

障害区分では「知的障害あり」が最も多く（183 名）、次いで「発達障害あり」（90 名で、そのうち 46 名は「知的障害なし」）、「肢体障害あり」（76 名で、そのうち 55 名は「知的障害なし」）でした（図 2 参照）。その他では「内部障害あり」2 名、「発作性疾患」8 名、「染色体異常」5 名、「高次脳機能障害あり」2 名、「その他」22 名でした。

男女別の年代および障害区分の分布を有意レベル 0.05 でカイ 2 乗検定したところ、有意差はありませんでした（それぞれ p=0.19，0.49）。これ以降、男女別の結果を記述しません。

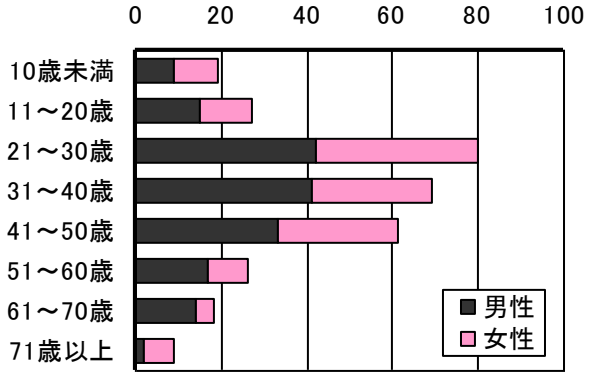

図 1. 年代別男女別当事者数

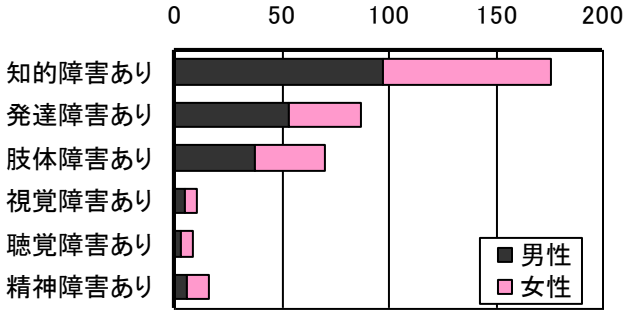

図 2. 男女別障害区分別の当事者数

【移動】

自力で歩行できる方が全体では最も多く 250 名（76.0%）でしたが、「肢体障害あり」（n=76）では 20 名（26.3%）でした。「肢体障害あり」では、「手動車いす利用」が 37 名（48.7%）、「電動車いす利用」が 12 名（15.8%）でした。

表 2. 移動に関して（n=329）

自力歩行	杖等利用して歩行	介助ありで歩行	介助してもらい車いす	手動車いす	電動車いす	その他
250 (76.0%)	9 (2.7%)	9 (2.7%)	4 (1.2%)	45 (13.7%)	14 (4.3%)	6 (1.8%)

３．当事者の生活

【同居／一人暮らし】

「家族と同居」が最も多く 273 名（83.0%）、「一人暮らし」が 24 名（7.3%）、「グループホーム」が 27 名（8.2%）、「入所施設」が 3 名（0.9%）でした。

「家族と同居」（n=273）で同居しているのは、「親」が最も多かった。

表 3. 同居人（n=273）

親	祖父母	兄弟姉妹	配偶者	子	その他
286 (86.4%)	42 (15.4%)	131 (4.8%)	22 (8.1%)	13 (8.1%)	13 (8.1%))

【障害程度区分】

結果を図 3 に示しました。また、障害程度区分の未認定が 3 名、重度包括支援が 2 名でした。

【利用サービス】

作業所利用が最も多かった（図 4 参照）。一方、全く利用していない方が 35 名いました。

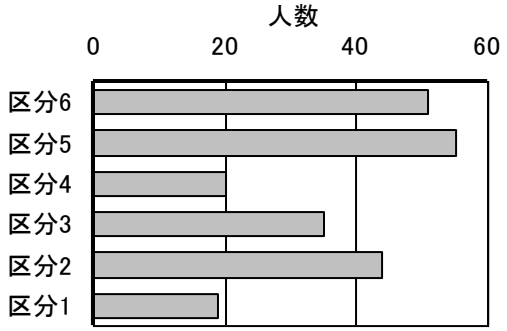

図 3. 障害程度区分別当事者数

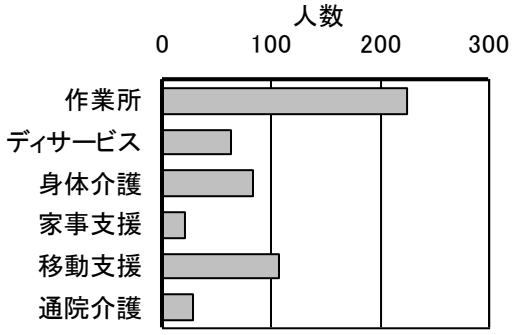

図 4. サービスの利用者数

【隣近所の人との関係】

「家族と同居」または「一人暮らし」の方（n=297）では、「よく話をする」のが 41 名（13.8%）、「あいさつ程度」が 193 名（65.0%）、「誰が住んでいるのかも知らない」が 52 名（17.5%）でした。

４．災害発生時や避難について

【災害発生時の不安】

全数（n=329）、「一人暮らし」（n=24）、「手動車いす」（n=45）、「電動車いす」（n=14）、「知的障害あり」（n=183）、「発達障害あり」（n=90）、「肢体障害あり」（n=76）に分けて、図に示しました。

総じて、電動車いす利用者の不安が大きいようでした。

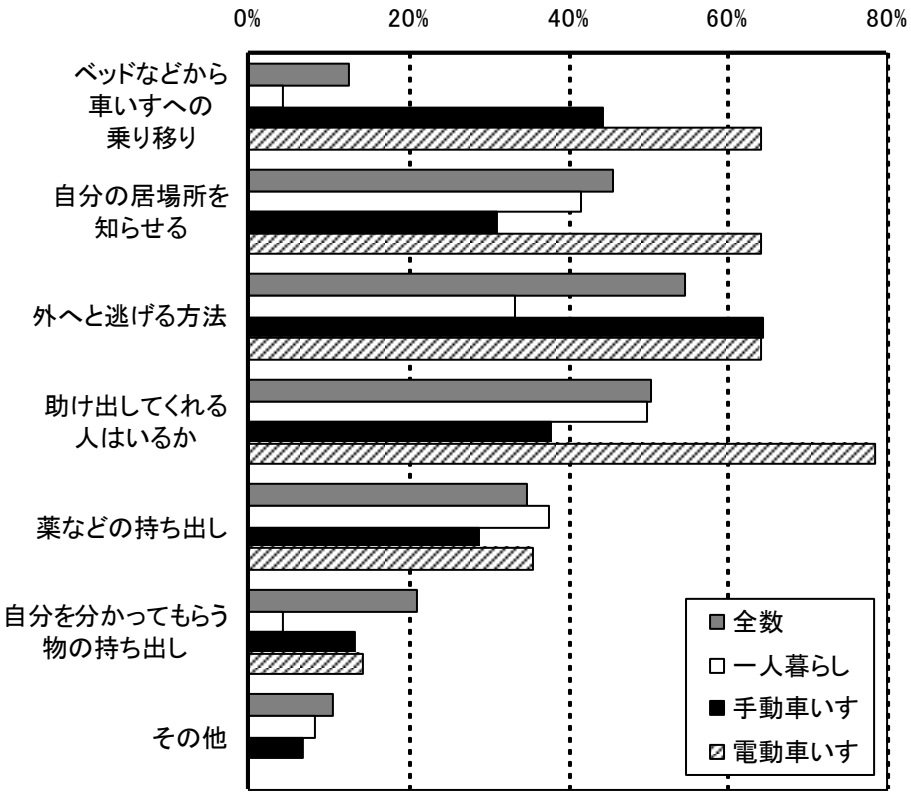

図 5. 災害発生時に不安に思うこと（一人暮らし，車いす利用者）

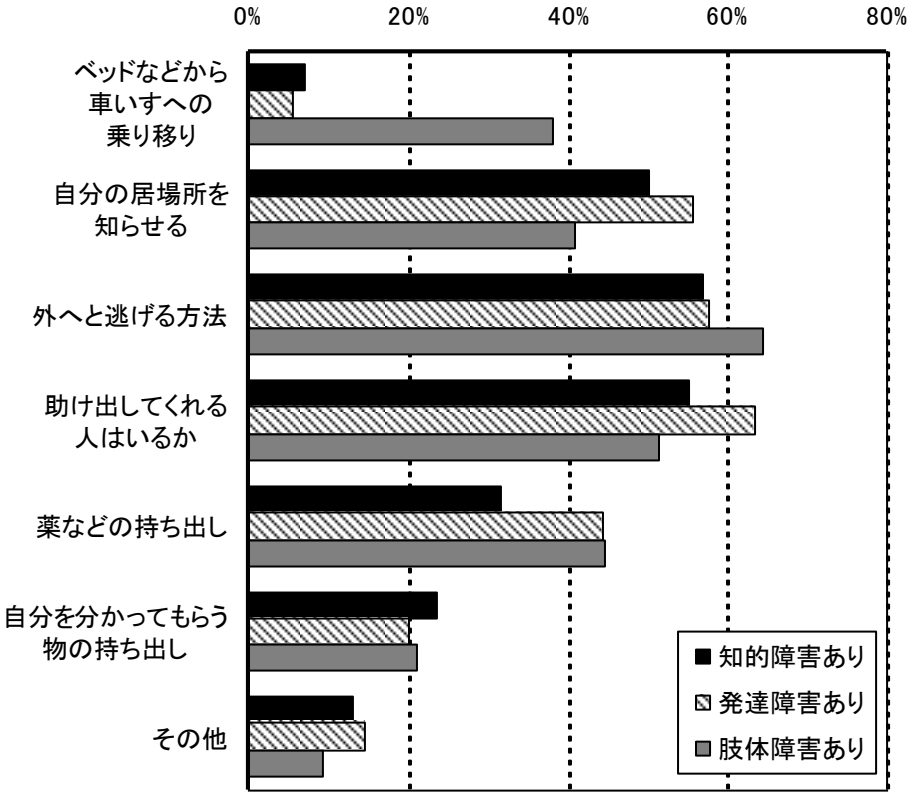

図 6. 災害発生時に不安に思うこと（障害種別）

【災害発生時に助けてくれると思う人】

前項目と同様に全数と 6 つに分けて、図に示しました。圧倒的に「同居家族」という回答が多くありました。一人暮らしの方の回答には一定の傾向が見られませんでした。

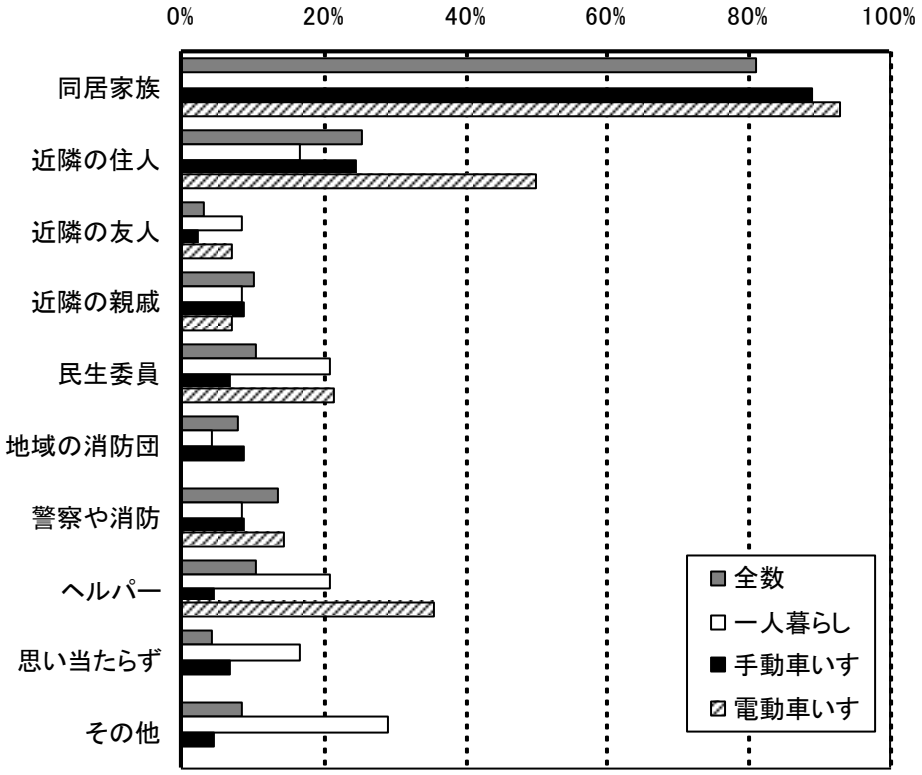

図 7. 災害発生時に助けてくれると思う人（一人暮らし，車いす利用者）

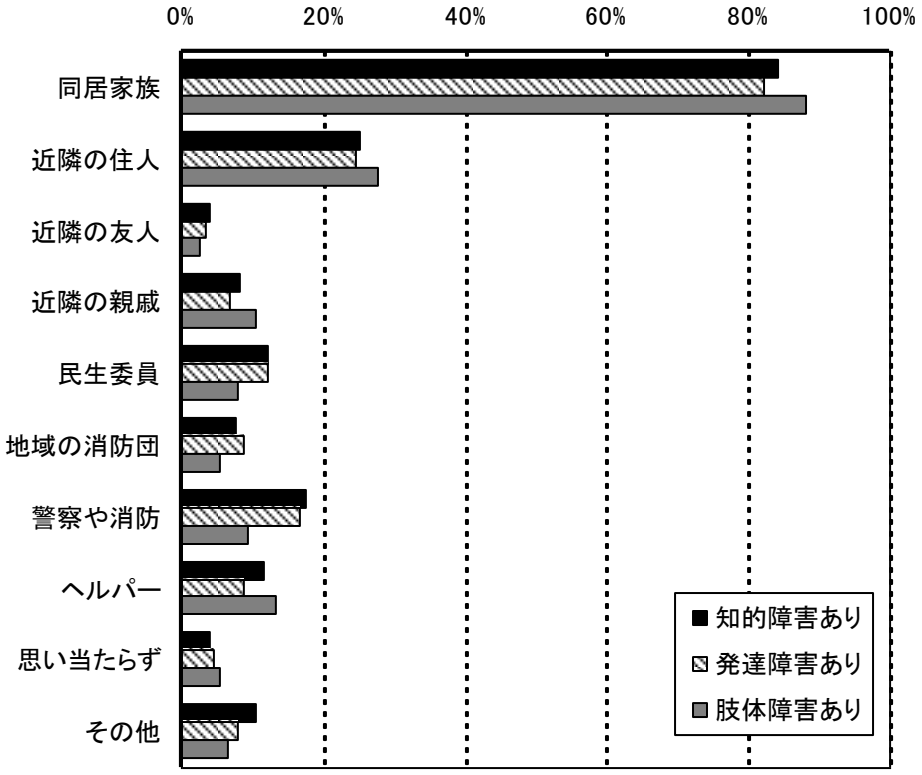

図 8. 災害発生時に助けてくれると思う人（障害種別）

【緊急一時避難所への移動で不安に思うこと】

前項目と同様に全数と 6 つに分けて、図に示しました。肢体障害のある方、特に車いす利用者の方の「移動」に関する不安が大きいようでした。

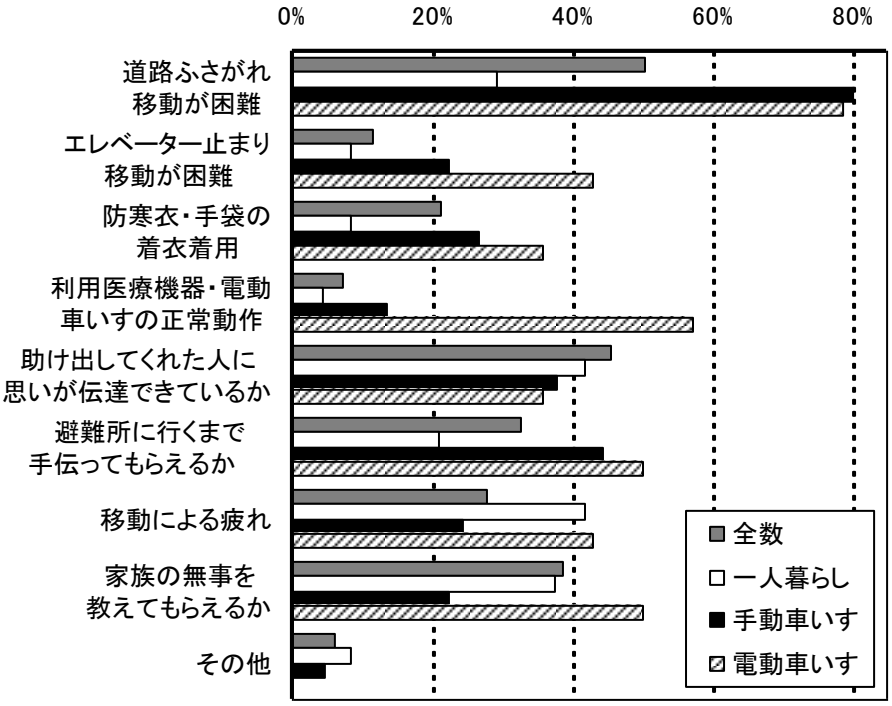

図 9. 避難所への移動での不安（一人暮らし，車いす利用者）

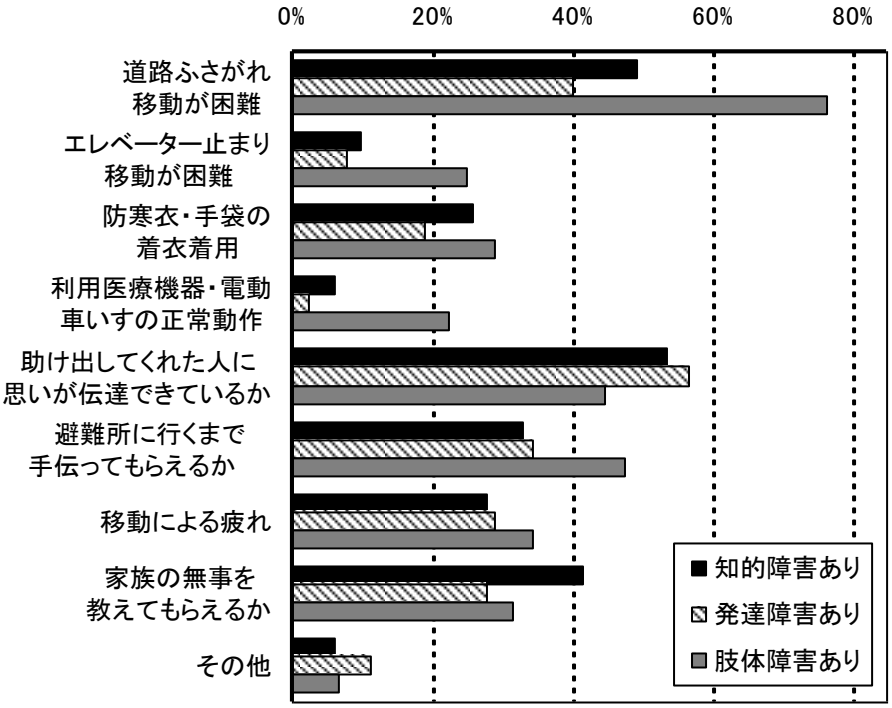

図 10. 避難所への移動での不安（障害種別）

【市町村の災害時要援護者登録制度】

当制度を知っていた方は 121 名（36.8%）で、登録している方は 76 名（23.1%）でした。登録していない方（n=223）の理由では、「制度を知らない」140 名（62.8%）、「登録方法がわからない」55 名（24.7%）、「登録内容が複雑」10 名（4.5%）、「避難救援者になってくれる人がいない」13 名（5.8%）、「自分のことをあまり知られたくない」9 名（4.0%）でした。

【地域の防災訓練】

参加したことがある方は 88 名（26.7%）でした。参加したことがない方（n=226）の理由では、「開催日時や場所を知らない」93 名（41.2%）、「日程が合わない」52 名（23.0%）、「面倒くさい」16 名（7.1%）、「移動が大変」41 名（18.1%）、「意味がない」14 名（6.2%）でした。

【災害発生時の（希望する）避難場所】

全数と 6 つに分けて、図に示しました。地域の緊急一時避難所に行く方が最も多くありました。しかし、3 割の方々が、「自宅にいて避難しない」と回答しました。

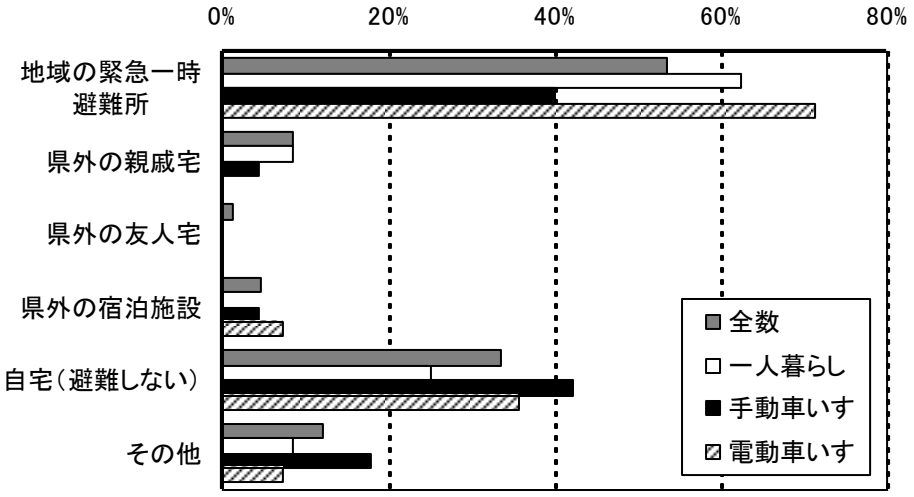

図 11. 災害時の（希望）避難所（一人暮らし，車いす利用者）

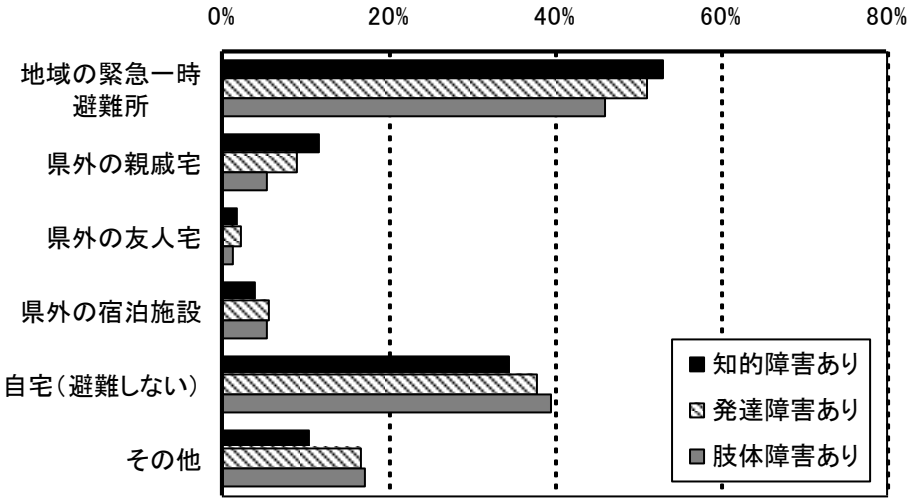

図 12. 災害時の（希望）避難所（障害種別）

【地域の緊急一時避難所】

場所を知っていた方は 178 名（54.1%）で、行ったことがある方は 95 名（28.9%）でした。行ったことがある方（n=95）が感じたのは、「エレベーターや多目的トイレなどのバリアフリー設備が整っていない」19 名（20.0%）、「場所がせまい」15 名（15.8%）、「冷暖房設備が整っていない」20 名（21.1%）、「声が響く」11 名（11.6%）、「建築年数が古い」16 名（16.8%）でした。

災害発生時に地域の緊急一時避難所へ「行く」との回答は、149 名（45.3%）でした。「行かない」と回答した方（n=116）の理由は多い順から、「家族だけのほうが安心」56 名（48.3%）、「他の人と仲よくできない」24 名（20.7%）、「自宅から遠い」13 名（11.2%）、「話し相手がいない」10 名（8.6%）、「自分（たち）にやってほしいことがない」11 名（9.5%）、「自分（たち）のことが他の人にわかってしまう」6 名（5.2%）でした。

【緊急一時避難所での生活で不安に思うこと】

全数と 6 つに分けて、図に示しました。肢体障害のある方、特に車いす利用者の方の生活手段に関する不安が大きいようでした。発達障害の方は、生活環境が変わる中、コミュニケーションや自身の感情のコントロールに不安が大きいようでした。

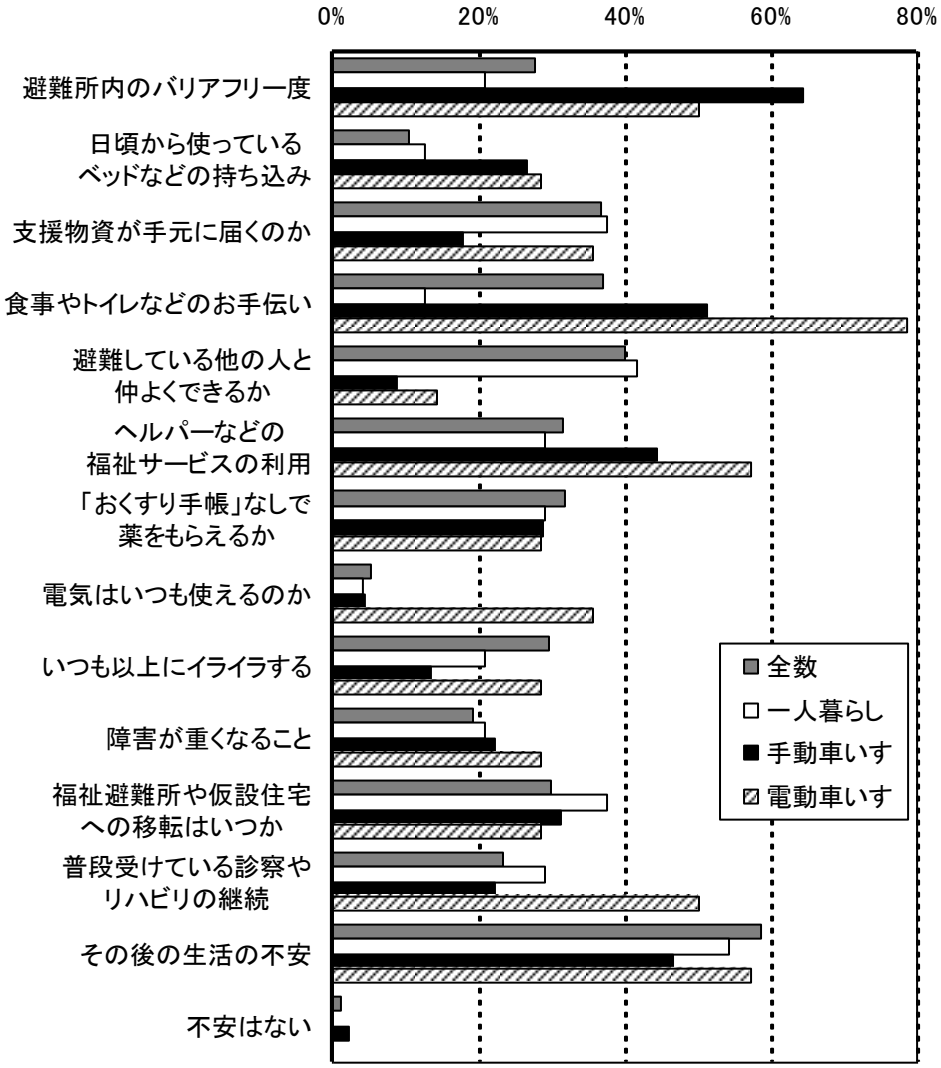

図 13. 避難所の生活での不安（一人暮らし，車いす利用者）

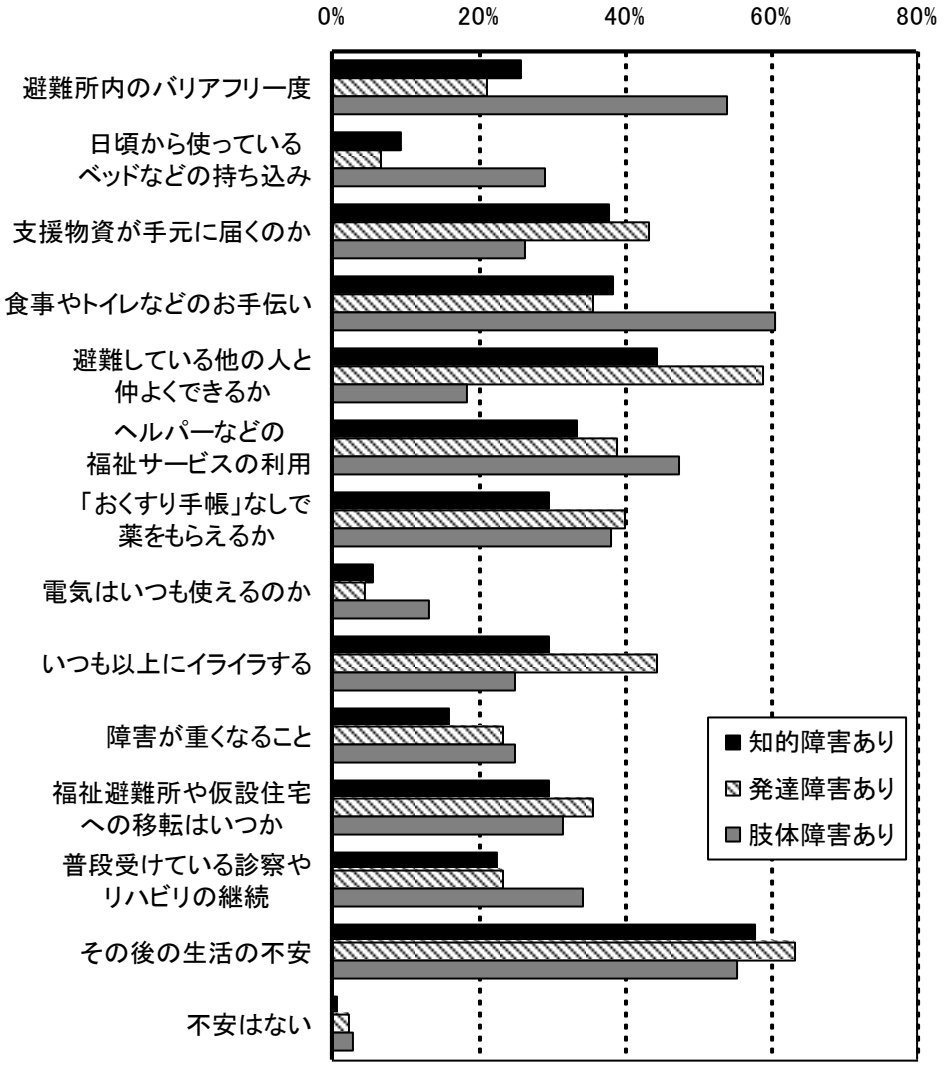

図 14. 避難所の生活での不安（障害種別）

【緊急一時避難所での安心な生活に必要と思うこと】

全数と 6 つに分けて、図に示しました。肢体障害のある方、特に車いす利用者の方は、物理的なバリアを除くことが必要と思っているようです。発達障害の方は、日中過ごせるところを多く求めています。

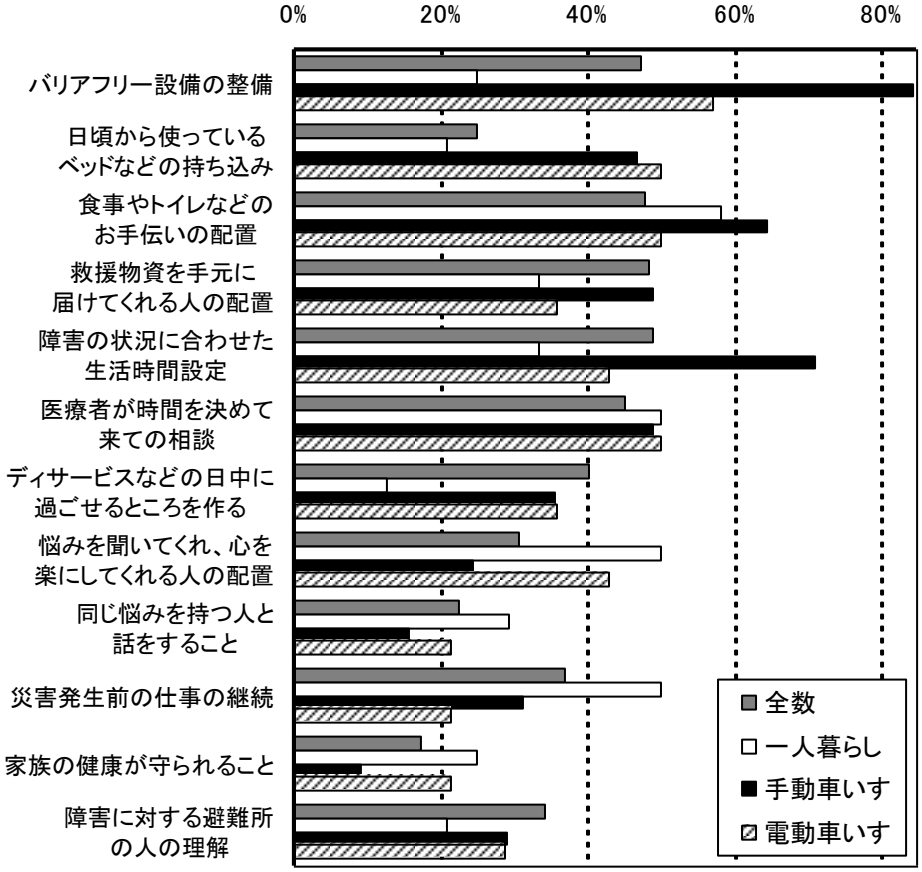

図 15. 避難所の安心な生活で必要と思うこと（一人暮らし，車いす利用者）

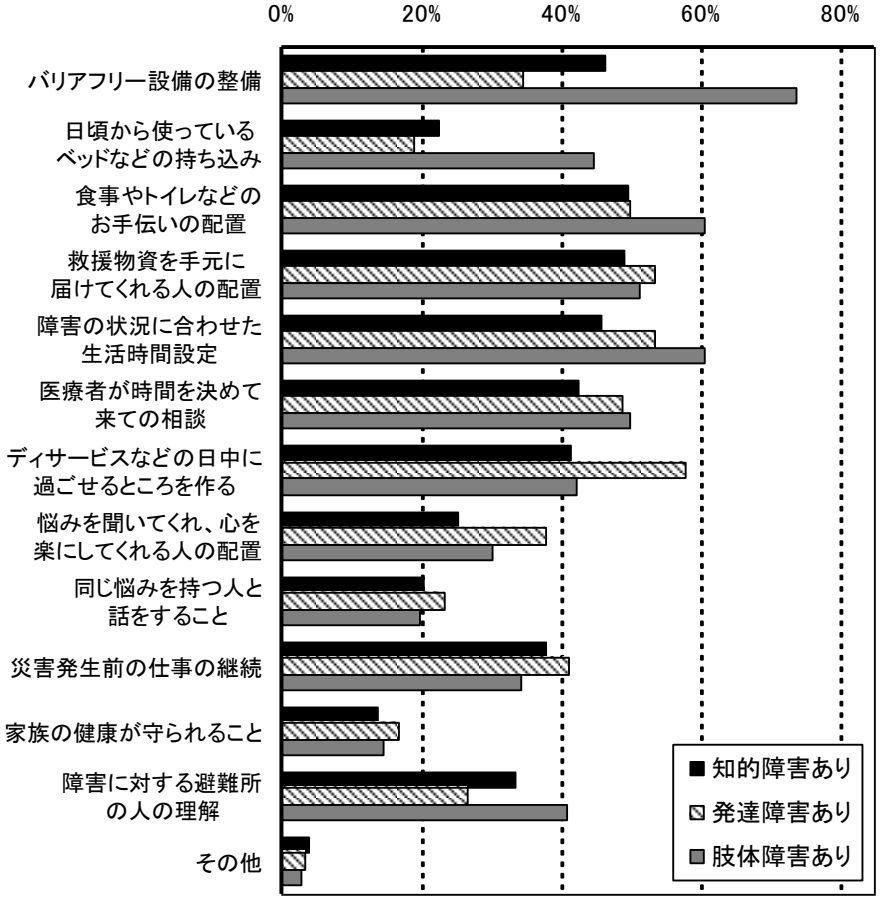

図 16. 避難所の安心な生活で必要と思うこと（障害種別）

【仮設住宅に住む際、不安に思うこと】

全数と 6 つに分けて、図に示しました。肢体障害のある方、特に車いす利用者の方は、物理的なバリアに不安を抱いています。一人暮らしの方は病院や買い物など生活圏の環境を心配していました。

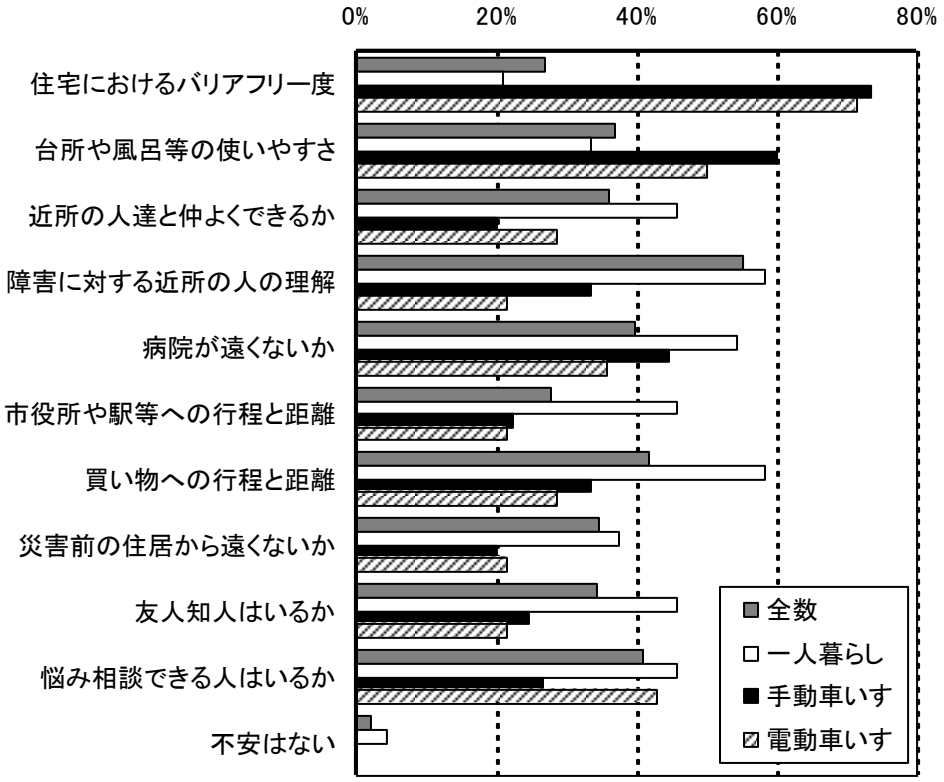

図 17. 仮設住宅に住む際の生活での不安（一人暮らし，車いす利用者）

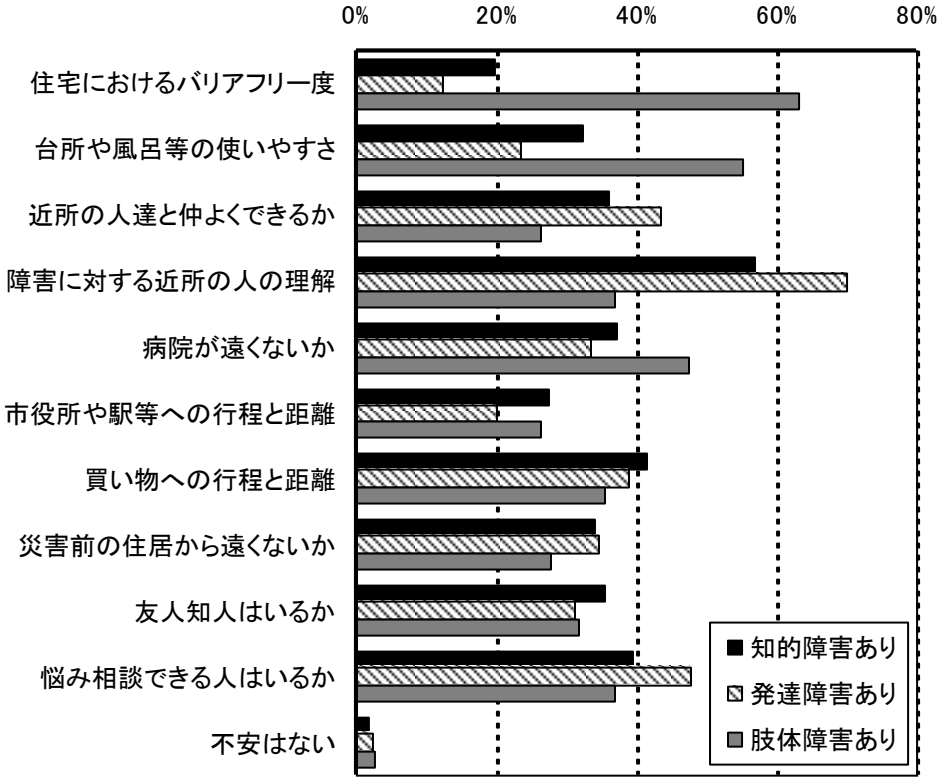

図 18. 仮設住宅に住む際の生活での不安（障害種別）

【仮設住宅に住んでから不安に思うこと】

全数と 6 つに分けて、図に示しました。総じて、災害発生前の福祉サービスが継続して受けられるのかを心配していました。

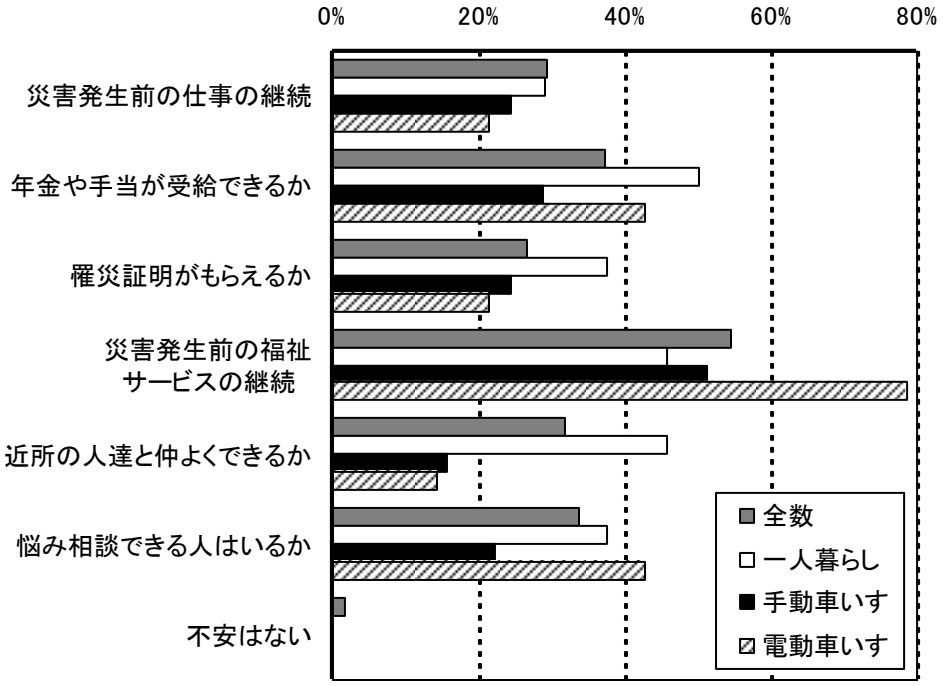

図 19. 仮設住宅に住んでからの不安（一人暮らし，車いす利用者）

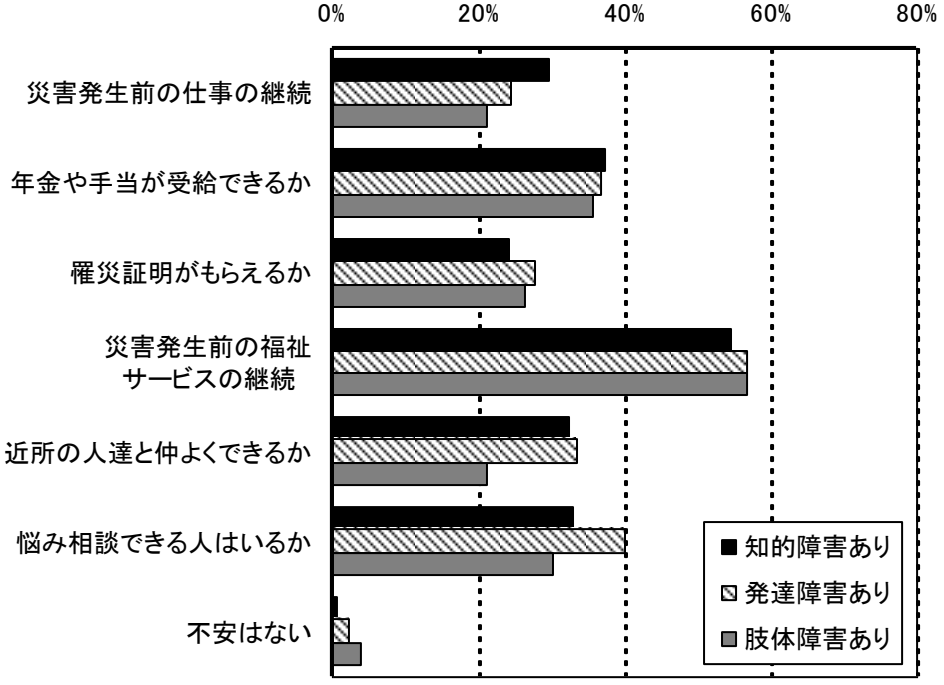

図 20. 仮設住宅に住んでからの不安（障害種別）

【災害発生後の安心な生活に必要と思うこと】

全数と 6 つに分けて、図に示しました。総じて、災害発生前と同等の福祉サービスの継続を求めていました。一人暮らしの方は、年金・手当ての増額を求めていました。

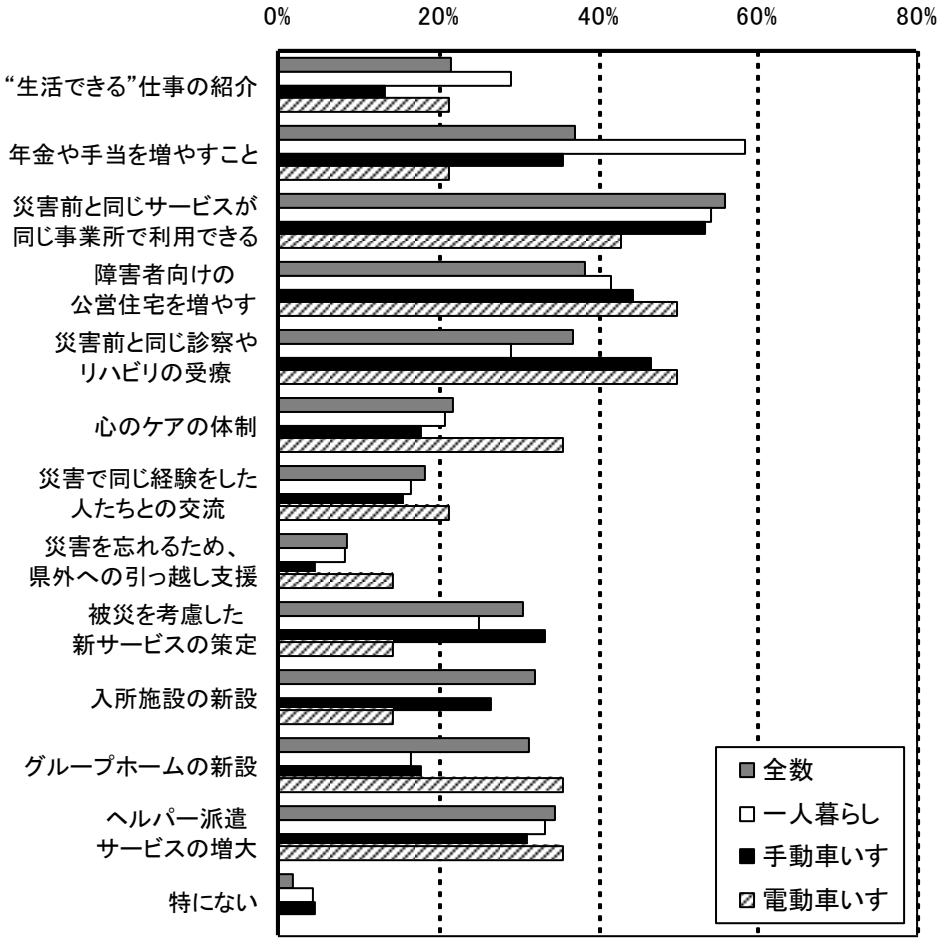

図 21. 災害発生後の安心な生活で必要と思うこと（一人暮らし，車いす利用者）

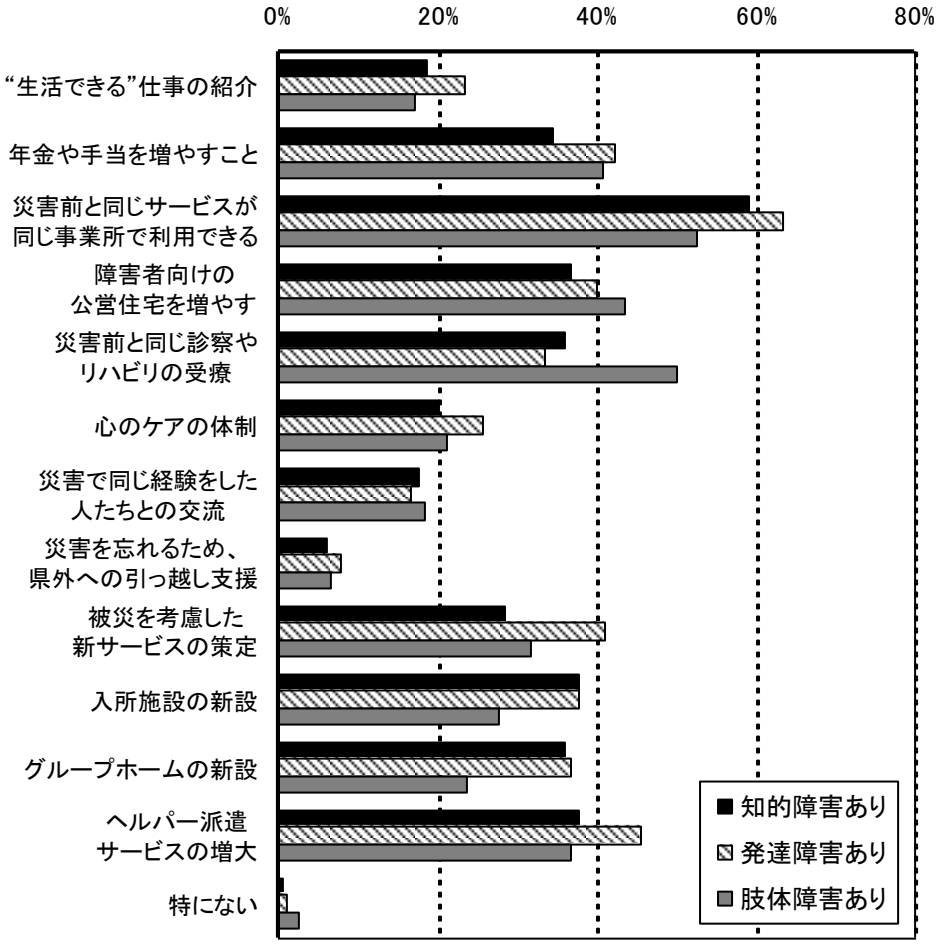

図 22. 災害発生後の安心な生活で必要と思うこと（障害種別）

3.私が災害時に不安に思うこと・みんなが災害時に不安に思うこと

◎私が災害時に不安に思うこと

・たとえば、地震の際、避難姿勢がとれるのか。
・家から必要なものを持ち出せるのか。
・外や避難所に移動できるのか。

→ けが等をすれば、同じような状況になる可能性がある。

一方で、障害者独自の課題として、

・食事や排泄などの日常介助。
・生きていくために必要な医療的ケアや生活に必要な車いす等の整備
・バリアフリートイレ等のハード面とヘルパー等のソフト面の整備

4.まとめ

<u>そうは言っても、災害は、いつ起こるかわからない・・・</u>
<u>行政・民間団体・地域・当事者・家族等が日常的につながることが重要。</u>